



令和2年3月27日
海上保安庁

みんなで知ろう東京湾！

～令和元年度 東京湾環境一斉調査の結果～

令和元年夏季に実施した「東京湾環境一斉調査」の結果を東京湾再生推進会議ホームページで公開しました。平成20年から始まった東京湾環境一斉調査は、年々参加機関を増やし、今年度は過去最多となる211機関の皆様に参加いただきました。

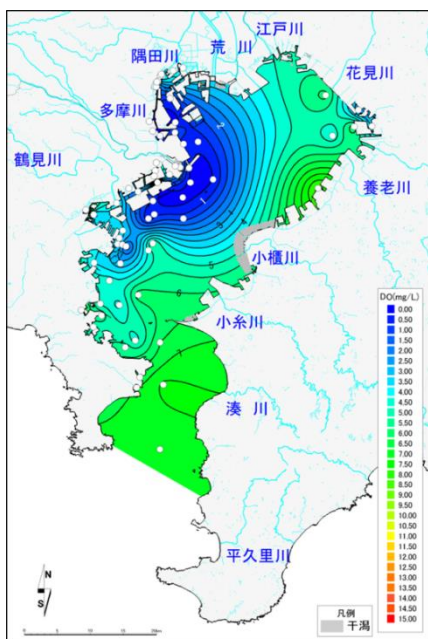
水質調査では、東京湾奥部の海底で依然として酸素の少ない海域が広がっていることが確認されました。

1. 東京湾環境一斉調査とは

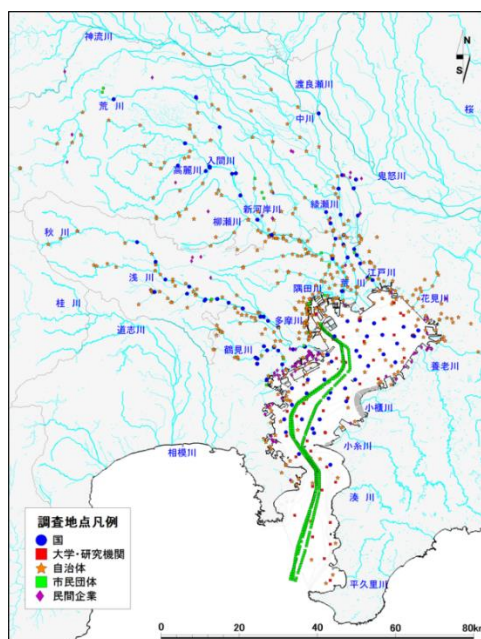
東京湾環境一斉調査は、関係省庁・自治体により構成される「東京湾再生推進会議モニタリング分科会」が主催しています。東京湾の現状について理解を深めるため、東京湾の海域及び流域河川における水質や生物の調査、環境啓発活動等のイベントを民間企業や市民団体、大学・研究機関、行政機関など、様々な方々が時期を合わせて実施する取り組みです。

2. 水質調査の結果

水質調査は、過去最多となる172機関が、基準日である令和元年8月7日(水)前後に、東京湾の海域及び流域河川1,091地点において水質調査を実施しました。東京湾奥部の海底では、例年夏場に貧酸素水塊(溶存酸素量(DO)がおよそ3.0mg/Lを下回る値)が発生しており、今年も東京湾北西部の沿岸部にかけて貧酸素水塊が観測されました。(詳細:別添共通資料)



底層溶存酸素量の状況(8月7日)



水質調査地点図(基準日以外も含む)

3. 生物調査と環境啓発活動等のイベントの結果

生物調査でも、過去最多となる20機関が、令和元年5月から11月の間に干潟に棲む生物種の調査を実施し、71種類の生物が確認されました。

また、19機関が、令和元年6月から12月の間に東京湾での海水浴体験やごみ拾いといった環境啓発や海に親しみを持ってもらうことを目的としたイベントを実施しました。（詳細：別添共通資料）



生物調査の様子



環境啓発活動等のイベント
(海岸のごみ拾い)

4. 海上保安庁の取り組み

海上保安庁は、東京湾環境一斉調査に合わせ、令和元年8月に千葉灯標に設置したモニタリングポストや第三管区海上保安本部測量船「はましお」にて水質調査を行いました。



第三管区海上保安本部測量船「はましお」による調査



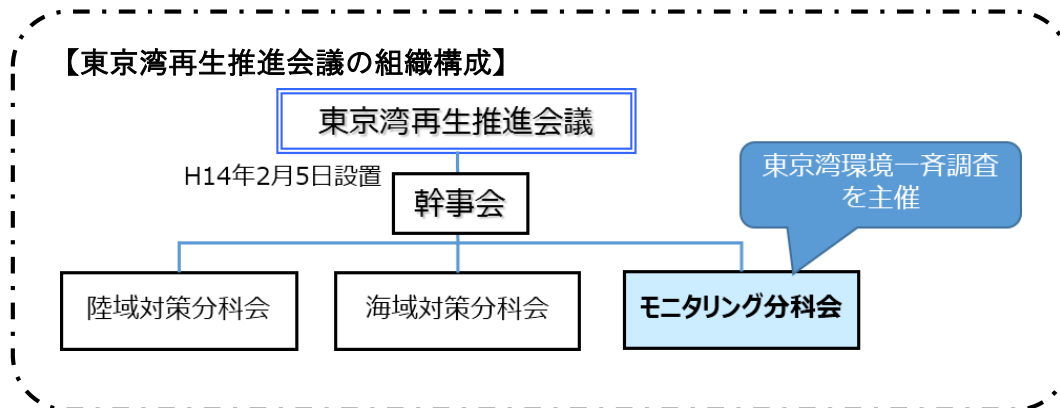
千葉灯標に設置したモニタリングポスト(図中赤線内)

【令和元年度東京湾環境一斉調査報告書 掲載ページ】

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/Monitoring/General_survey/index.htm



【参考】東京湾再生推進会議の枠組み図



「東京湾再生推進会議」は大都市圏の「海の再生」を図るため、平成14年に関係省庁及び関係地方公共団体^{*}を構成員として設置されました。詳細については、下記 URL をご覧ください。

https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KANKYO/TB_Renaissance/index.html

※東京湾再生推進会議構成メンバー

- ・ 内閣府地方創生推進事務局
- ・ 国土交通省水管理・国土保全局
- ・ 国土交通省港湾局
- ・ 海上保安庁
- ・ 農林水産省農村振興局
- ・ 林野庁
- ・ 水産庁
- ・ 環境省環境再生・資源循環局
- ・ 環境省水・大気環境局
- ・ 埼玉県
- ・ 千葉県
- ・ 東京都
- ・ 神奈川県
- ・ 横浜市
- ・ 川崎市
- ・ 千葉市
- ・ さいたま市